

(様式6-3)

研修等 報告書

令和5年 1月30日

三田市議会議長 松岡 信生 様

私は、研修等報告書を下記のとおり提出します。

会 派 名	代表者	
	議員名	肥後 淳三
参加者氏名	肥後 淳三	
講演会等研修名	令和4年度ひょうご水素社会推進シンポジウム	
研修事項	基調講演：神戸大学客員教授 駒井敬一氏 特別講演：科学コミュニケーター 本田隆行氏 パネルディスカッション「水素社会の先進地に向けて」	
日 時	R5年 1月23日（月曜日）14時00分～16時30分	
場 所	姫路市神屋町143-2 アクリエひめじ（姫路市文化コンベンションセンター） 中ホール	
所 見 （別紙でも可）	○基調講演：神戸大学客員教授 駒井敬一氏 ・水素社会の構築が何故必要かを俯瞰的な見地から報告 ○特別講演：科学コミュニケーター 本田隆行氏 ・技術は20年ほど前から確立していた。これからが本番。 ○パネルディスカッション「水素社会の先進地に向けて」 ・県知事、姫路・神戸市長、川崎重工・神戸製鋼役員がパネラーとなり意見交換。 ・兵庫の地、特に港湾部が水素社会の源流となりサプライチェーンを築くとともに技術的な確立を急ぎ、2050年のカーボンニュートラルの世界をビジョンとして掲げたい。 <p style="text-align: right;">（別紙要点報告添付）</p>	
添付資料	・現地でのレジュメは特になし ・現地に配架していた「KANSAI 水素の入門書」添付 ・別紙基調講演、兵庫県知事、パネラーの皆様から得られた知見を報告	

添付書類（講演会内容のパンフレット等）

会派支給の場合、会派名、代表者名を記入の上、押印してください。

個人支給の場合、会派名（無会派は記入不要）、議員名を記入の上、押印してください。

令和4年度 ひょうご水素社会推進シンポジウム報告書

三田市議会議員 肥後 淳三

主催：兵庫県

場所：アクリエ姫路中ホール

参加人数：約400名

ホールの外では、水素自動車、水素バス、水素バイク、燃料電池などを開発した企業の展示があり、ホールのホアイエでは、水素運搬船、水素ステーション、水素発電機などの開発に関わっている企業のパネル展示を行っていた。

1 開会の挨拶・・・斎藤知事

- ・地球の気候変動は疑う余地がない。
- ・2050年を目標にカーボンニュートラル、脱炭素の社会を進める必要がある。
- ・そのためには、産業構造を変えなければならない。
- ・幸い播磨臨海部、神戸臨海部には、水素関連企業が集積している。
- ・ウクライナの戦争以降、エネルギーの安定供給は安全保障の問題となっている。
- ・今神戸市、姫路市両市には、サプライチェーンの基盤となりえるポテンシャルが存在している。
- ・県では、2013年度予算に水素関連助成金を増やして中小企業を支援する。
- ・これらは全て未来の子どもたちのため・・・。

2 基調講演：神戸大学客員教授 駒井敬一氏

- ・日本のエネルギーは、85%輸入依存。それも化石燃料のみ
- ・太陽光・風力などの再生エネルギーの活用は世界でも上位(4位)ではあるが、既に場所などを含めて飽和状態となっている。
- ・日本はエネルギーが不足していることになるが、再生可能エネルギーを増やすことは住環境、自然環境への影響が大きい。
- ・カーボンニュートラルはこれからが本番である。水素活用もこれからであり、一気に水素に転換していくのは難しい
- ・そのためにも2050年に向けて省エネを進めながら水素技術を確立していく必要がある。
- ・現在の日本のエネルギーは、原子力、火力、再エネのバランスで成り立っているが、2050年には、火力や原子力を使わなくても水素エネルギーだけで賄える時代が来ると予想している。

3 パネルディスカッション「水素社会の先進地に向けて」

登壇者：齋藤元彦兵庫県知事、久元善造神戸市長、清元秀泰姫路市長、西村元彦川崎重工㈱執行役員、竹内正道㈱神戸製鋼所執行役員

コーディネーター：牧村実ひょうご水素社会推進会議座長
(兵庫県知事)

- ・次年度水素関連公卿への補助率を10%としていく。
- ・水素ステーションは、現在県内に3か所だが、今後10か所に伸ばしていく。
- ・瀬戸内海の港湾を活用し山口県の港、大阪湾に至るまで水素事業関連のサプライチェーンを構築できる。兵庫から発信する。
- ・既存産業だけではなく、水素技術を拡大するため新産業の物づくりへ裾野を広げたい。

(神戸市長)

- ・ポートアイランドで水素発電の装置を入れ実験中であり、内外から視察に来てもらっている。
- ・CNP(カーボンニュートラルポートアイランド)構想に基づき、荷役機械、重機など港湾関係の動力を全て水素由来で賄いたい。

- ・水素基地を基盤にサプライチェーンを構築する。
- ・中小企業の参入には、技術基準の確立が必要である。

(姫路市長)

- ・姫路市は、姫路城ゼロカーボンキャッスルシティ構想があり、姫路城へのライトを全てLED化し、静かな姫路城の演出に努めていく。

(川崎重工業執行役員)

- ・水素の課題は、低コストにすることである。
- ・水素ステーションなどの拠点基地を設置し、天然ガスと同様な扱いになることができるか。
- ・現在は、まだまだ短期利用の域を出ていない。大量海上輸送などを確立して今後は長期利用が可能ないようにしていく必要がある。
- ・安全保障上の問題もあり、これまで化石燃料を保有している国でも水素燃料の利用が加速するであろう。

(神戸製鋼所執行役員)

- ・神戸製鋼所も水素を活用した脱酸素社会の構築事業を実施している。今後の水素社会到来を見越して独自技術を開発する。

(牧村コーディネーター)

- ・水素の技術は、性能基準を定めて普及させることが必要である。
- ・水素活用の課題は技術面も含めて山積しているが、2050年の未来を見据えて産官学の連携と協働のもとで水素社会を構築していく必要がある。

4 閉会の挨拶・清元姫路市長

- ・先日姫路城の「観月祭」が開催されました。観月祭には、エンジン発電機を使わず、全て再エネを用いてライトアップをしました。実に虫の声が聞こえるほどの静寂さであり、昔の観月祭に思いを馳せ、市民からも好評を得た。
- ・まさに姫路城ゼロカーボンキャッスルシティを目指す姫路市は、これからも姫路城を温かな色合いで夜を映し出し、息子、娘、孫たちにより良い環境を残していく所存である。

5 所見

2050年を見据えて国が動き出し、ウクライナへのロシア侵攻に伴うエネルギー・食料の安全で安定した輸入などが保障されない時代となっている。

今回の、水素社会推進シンポジウムを聞いていて、まさに日本のエネルギー問題解決の大きな柱になっていくであろうことを感じた。

特別講演で科学コミュニケーターの本田氏は、「水素を造るのにCO2を排出していたり、使う技術が確立されていなかったりして普及には、まだまだ時間がかかるが、これからの27年間は、時間があるようでもう時間は残り少ない。」との言葉が印象に残った。

齋藤知事も久元神戸市長もサプライチェーンの構築について発言されていた。そのためには、国際的に共有できる自国開発の技術の確立が欠かせないと思う。

三田市も1月21日にゼロカーボンフォーラムを開催。カーボンニュートラルな市にしていくためには、森林のCO2吸収だけではニュートラルにはなりえない。

兵庫県が2025年に導入を決めている水素ステーション基地に手を挙げ、企業への使用、車への供給、家庭や公共施設での防災に利用する発電装置などへの使用など、一早い施策展開の必要があるのでないか。

以上